

世田谷区立砧中学校
校長 加藤 敏久 様

世田谷区立砧中学校
学校関係者評価委員会
委員長 中山 庸子
委員 石井 由里子
委員 宇佐美 武志
委員 服部 光司
委員 安村 麻衣

令和7年度 学校関係者評価委員会 報告書

【前書き】

令和7年度の学校関係者評価を実施しましたので、ご報告いたします。学校関係者評価委員会では、評価を行うにあたって、「学校関係者評価アンケート(生徒・保護者・地域)」の集計結果を分析するとともに、先生方からのヒアリング、授業・行事参観を行い、多角的な観点から検討しました。評価結果については、今後の教育活動及び学校運営にご活用いただければと思います。

1 学習について

昨年度から項目に追加された『キャリア教育について』の項目内にあった「学ぶことは楽しい」が『学習について』内の項目となった。肯定は昨年度から4ポイント下がって73.2%、否定は6ポイント上がって25.0%、不明は1ポイント下がって1.9%であった。昨年度より肯定のポイントは下がったが、ほぼ横ばいの結果となった。70%強の生徒が「学び」について肯定的に捉えているが、否定的な回答をしている生徒たちの割合にも変化がない。否定的な回答をしている生徒がなぜ学びを楽しみと思えないのか、どうしたら楽しいと思えるのか、生徒から意見を募る等して、どの生徒も「学ぶことは(大変な面もあるが)楽しい」と思えるように、学習面における指導方法をより工夫されたい。

2 学習指導について

生徒アンケート結果によると、学習指導の項目は、全体的に肯定的な評価が多く(いずれも80%~90%)、日頃からわかりやすく丁寧な指導がなされ、生徒の理解を深めるべく授業内容にも工夫が施されていることが窺える。他方で、満足していない生徒も一定数いるため、それがどのような理由に基づくものか、生徒の意見も取り入れながら、さらに充実した授業への取り組みをお願いしたい。

保護者アンケートでは、「わからない」が項目によって25%以上に上っている。授業参観等で実際に学習風景を見たり、子どもから話を聞かないと回答できない項目であることも理由と思われるが、仕事や家庭の事情等で来校できない保護者も指導内容が理解できるように、情報共有の在り方を工夫することを検討されたい。保護者が学習指導内容に関心を持てば、意見交換も活発化し、より多くの生徒が満足できる指導内容の構築につなげられる。

3 学校行事(運動会、学発など)について

学校行事に関するアンケートでは、生徒は、「楽しい」、「達成感がある」、「共に頑張ろうと努力している」と感じることができると肯定的な回答が多く(90%以上)、行事に対する満足度が高い。アンケート結果からは、行事そのものだけでなく、それに向かう過程で、生徒がいろいろな気づきや学びを積み重ねている様子がうかがえる。他方で、行事が

苦手な生徒も一定数存在するため、そのような生徒には、本人なりの達成感を抱いてもらうよう個別に目を配り、声掛け等の配慮することが求められる。行事は、それに向けた準備も含めて自己形成において重要な体験・経験の場となる。すべての生徒がそう思えるように、引き続き尽力していただきたい。

4 部活動について

「部活動は楽しい」は生徒 79.4%(昨年75.8%)、保護者 84.9%(昨年74.2%)、「達成感がある」は生徒 76.6%(昨年76.7%)、保護者 79.4%(昨年74.3%)は、例年同様総じて、高評価である。伝統的に、部活動の種類が多岐にわたり、選択の幅が広いことが、特色の一つである。次年度の評価にも注目していきたい。

既に取り組まれていることではあるが、今後は部活動の地域移行が数年間かけて行われていくと聞いている。砧中学校の部活動にも多くの支援員の方にお手伝いいただいているとのことである。今後の部活動のあり方も含めて、多いに期待していきたい。

5 生活指導、キャリア教育について

今年度より『生活指導について』と『キャリア教育について』が一つと題目になった。

『生活指導について』では、生徒は「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」が肯定 88.4%、否定8.8%、「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」は肯定 87.9%、否定 9.5%と昨年度より少し肯定が下がったが、概ね 90%近い生徒が自主的に考えて学校生活を送っている様子がうかがえる。他方で、一部の生徒にとっては先生の指導が、「ルールは遵守して当然」と映っている可能性もあるため、配慮が必要である。保護者は「学校の過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」は肯定が 70.8%、否定が 12.2%、不明が 17.0%、「教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」は肯定 80.1%、否定 10.3%、不明 9.6%と昨年度とほぼ変わらず。保護者のうち、否定はいずれも 10%程度であるところ、生徒の否定の割合とも近似する。不明と回答した保護者については、引き続き情報提供することにより理解につなげる必要がある。

『キャリア教育について』は「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」は、生徒は肯定が4ポイント下がって 80.9%、否定 14.8%、保護者は肯定が 7ポイント上がって 78.2%、否定 10%。生徒の「授業で学んだことはこれからの人生に役立つと思う」が肯定 84.5%、否定 11%、不明 4.5%。保護者の「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」は、肯定 70.4%、否定 15.8%不明が 13.8%となっている。保護者の否定と不明が 30%と高いため、これからも理解を得られるよう保護者に情報を発信してほしい。

キャリア教育については、1年生では入学後、一人一人にタブレットが配布され、ICT 支援員から使い方を学び授業で活用、2年生では職場体験とその準備として、起業家の方を招いて職業講話やマナー講座を実施した他、都立高校の訪問授業を実施、3年生では修学旅行を実施した他、昨年度に引き続き、高等学校の先生方による「多様な進路を考えるための進路説明会」が実施され、I 組では進路講演会が開催された。また、このようなイベントだけでなく、今年度も国際交流が盛んで、4月にはオレゴン州マウントテイバー校の生徒の訪問、5月には3月に実施されたスリランカ学校リモート交流に対して国連支援財団から感謝状を贈呈、9月にはオーストラリア・バンバリー派遣、11月にはI 組『セカクルあなたの学校に世界がやってくる!』という企画で早稲田大学の留学生を中心とするサークルメンバーによる国際理解交流を開催と、学年・学級を通じてたくさんの国際交流の機会があった。また様々な教科の学習の中でもキャリア教育が取り組まれている。

またキャリアパスポートについては、夏休み前と12月にキャリアパスポートウィーク(教育相談)が実施された。キャリアパスポートを面談で活用し、保護者会などでも引き続き周知していただきたい。キャリアパスポートの活用を通して生徒一人一人が自分の将来について考え、教員に相談をし、保護者とも共有しながら可能性を広げていくことはとても大事なことである。引き続き取り組んでいただきたい。

6 その他について

今年度より『全般について』、『その他』、『学校の安全性について』、保護者の『学校からの情報提供について』が一つの題目となった。

「学校生活は楽しい」は生徒の肯定が2ポイント上がって 91.9%、保護者は 10 ポイント近く上がって 89.7%とどちらも 90%前後と高い評価である。

「学校生活は達成感がある」は生徒の肯定が 3 ポイント上がって 82.6%、保護者は 11 ポイント上がって 81.0%とこちらも高評価となった。

生徒の「自分から進んであいさつをしている」は肯定が 86.7%、「係、当番、委員会活動などの自分の役割を果たしている」は肯定が91.7%、「自分が解決できない悩みができたとき、話を聞いてくれる人がいる」は肯定が 91.3%とどの項目も昨年度同様、高い評価となっている。

保護者の「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」は肯定が 87.8%、「学校公開や保護者会などで、生徒の様子がわかる」は肯定が 82.9%、「安全な学校づくりを進めている」は肯定が 82.6%といずれも昨年度のよりも高い評価であった。特に安全性に関しては 5 ポイントも上がっていた。

今年度の生徒会は「同心共創~生徒の声が砧中を創る」をスローガンにし、生徒の声を聞き、学校を自分たちでより良いものに変えていける環境が砧中にはあるとのことで、昨年度にペットボトル持ち込み(併用)を可能にしたいという生徒からの要望に応え、衛生面や環境に対する配慮について考え、生徒会与先生方との協議を重ね、ペットボトルのことをもっと知ってもらうため、サントリーと QuizKnock のみなさんによる『砧中ペットボトルリサイクル講座』が開催された。

悩みに関しては、1月に1年生対象の子ども家庭庁と TOPPAN のコラボ事業「悩みについてみんなで考える授業」が開催され、事前アンケートから、モヤモヤした気持ちになったことがある生徒は 59.9%いたとのこと。原因は勉強や成績・友人や家族など。その時の気持ちは、むかつく・イライラ・不安が上位を占め、解消法は食事や休息・娯楽趣味・運動・外出など。ロールプレイなどからそれぞれじっくり考えることができたと聞いている。

7 学校からの情報提供について

地域の皆様からは、ホームページによる学校からの情報提供について、92.5%と高評価である。本校のホームページを見れば学校の様子がわかるというコンセプトを御理解いただき、必要な時にホームページから情報を得ていただいているものと思われる。今後もホームページの充実を期待したい。一方で、ホームページだけに偏らず、様々な形での発信も続けていただきたい。

8 学校の安全性について

学校の安全性に関するアンケート結果は、地域については、「学校は安心・安全な学校づくりを進めている」は、肯定的な評価が81.5%、否定的評価が3.7%となっており、前年度よりやや評価が下がったが、80%以上で高評価と言える。他方で「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」については、肯定的評価が前年よりやや上がって 73.9%となっている。回答数からすると大きな変化はない。砧中学校では、避難所運営委員会が地域中心となって学校と連携して、毎年定期的で開催されており、9の項目と同様、学校と地域の連携・協力があってこそ、学校の安心・安全が守られるので、引き続き地域との連携を深め、安心・安全な学校づくりに努めていただきたい。

9 地域との連携について

今年度は保護者の地域連携に関する評価のデータが無いが、保護者の方が地域との連携をどのように捉えているかは評価が必要である。

「地域の人や施設を教育活動に生かしている」については、一昨年度は肯定的評価が100%、昨年度は53%、今年度は 81.5%と高評価にはなっているが、今後も引き続き、地域と学校の交流を積極的に進めていく必要がある。

来年度からか学校運営委員会、学校協議会のあり方が変更となるが、地域の方々に直接学校のことを報告し、地域の

方の声を教育に生かすことは今後とも重要である。生徒たちは、学校と地域で見守られることによって、安心して学校生活を送り、成長することができる。そのことを忘れずに、今後も活発な活動を期待したい。仕組みが変更となっても「地域運営学校」という言葉と仕組みは必要である。

また地域は、「ボランティアの機会があったら中学生に参加してほしい」が、肯定 100%と高く、この数字は地域の高齢化もあり、中学生の地域活動への参加を強く望んでおり、生徒たち自身にも自分たちは地域を作る力である意識を持つことを望む。

「学校行事が地域の方々にも案内されるようになったら、参加したいと思う。」も 96.3%と高く、この数字から地域の方も学校行事への協力への意識は高いと評価する。

【総評】

アンケートの結果分析は、肯定的評価(「とても思う」「思う」の合計)、否定的評価(「あまり思わない」「思わない」の合計)、不明(「分からない」)のそれぞれの数値を、昨年度と比較することにより分析している。学校行事や学校生活については、生徒は肯定的な評価が多かったが(80-90%)、「学ぶことが楽しい」という項目については、否定的な評価をしている生徒が 18%に上った。否定的な評価については、どうしてそう思うのか、その声をしっかり吸い上げられるように日頃から生徒への声掛けを徹底していただきたい。項目によっては、保護者の回答に不明(「わからない」)が相当割合見られたので、指導面や生活面に関する情報共有については工夫が必要と思われる。地域との関係では、生徒が自分から進んで挨拶をしているかについて、否定が18.5%に上った。生徒の86.7%が「自分から進んであいさつをしている」と回答していることと対照的である。地域で見守られることによって、安心して学校生活を送り、成長することができるということを、生徒にも理解してもらおうべく、日頃から生徒に対して、地域も応援者であることを理解してもらおうよう伝えていく必要がある。

【まとめ】

今年度の砧中学の生徒会のスローガンは、「同心共創」生徒の声が砧中を創る」というものでした。生徒の声を聞き、学校を自分たちでより良いものに変えていくことを目標にしたものですが、自分たちのことを自分たちで考え、決めていくということはとても重要な視点とと思います。「学校関係者評価アンケート」の生徒の回答を見ると、学校生活で生徒の意向が尊重されていない(あるいは生徒の気持ち拾えていない)場面が見えてきます。この点こそ、指導の工夫が求められていると思います。保護者の声との比較も重要です。生徒の評価と保護者の評価が異なる理由としては、学校から保護者に情報共有が足りないことが考えられます。同じ項目について生徒と保護者で大きく評価に違いが出ないように(生徒と保護者の評価が近づいてこそ、生徒も学校生活がより過ごしやすくなります。)、検討していただくと思います。今後も生徒・保護者・地域の声にしっかりと耳を傾け、学校の教育活動や学校運営などの改善、充実につなげていってください。

以上